

研究機関名：東北大学

受付番号：	2013-1-321
研究課題名	鏡視下 Bankart 修復術の術後成績—コンタクトとノンコンタクトスポーツ選手の比較—
研究期間	西暦 2013 年 10 月 (倫理委員会承認後) ～ 2014 年 10 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料 (対象臓器名) <input type="checkbox"/> 生検材料 (対象臓器名) <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (カルテ)
上記材料の採取期間	西暦 2007 年 1 月～ 2009 年 12 月
意義、目的	反復性肩関節前方脱臼に対する鏡視下バンカート修復術は標準的な術式になっており、その良好な臨床成績も数多く報告されている。しかし、スポーツ選手特に、ラグビーや柔道などコンタクトスポーツ選手に対する鏡視下バンカート修復術の手術成績は良好であるという報告と成績不良であるという報告と一定の見解は得られていない。本研究の目的は、コンタクトスポーツ選手とノンコンタクトスポーツ選手に対する鏡視下バンカート修復術の術後成績を比較することである。
方法	対象は鏡視下バンカート修復術を受けたスポーツ選手 (コンタクトスポーツ選手およびノンコンタクトスポーツ選手) であり、コンタクトスポーツ選手とノンコンタクトスポーツ選手の臨床成績を比較する。 カルテの記載から既往歴、理学所見 (肩可動域、筋力)、現症 (症状の有無)、スポーツ復帰 (完全復帰、不完全復帰、不可)、追加手技の有無 (腱板疎部縫縮など)、術後経過 (再脱臼の有無) などの情報を得る。
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学医学部整形外科分野 助教 山本 宣幸 電話 022-717-7245